

# 教育研究業績書

2017年05月29日

所属：学校教育センター

資格：特任教授

氏名：古岡 俊之

研究分野	研究内容のキーワード
臨床教育学、地理教育学、環境教育学	教師教育、生徒指導、地理教育、環境教育、帰国子女・外国人子女教育
学位	最終学歴
博士（臨床教育学） 教育学修士	武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科博士後期課程 大阪教育大学大学院教育学研究科修士課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 教育実習、教職実践演習、教職入門、生徒指導・進路指導講義	2013年4月～2017年3月	教職関連科目について講義、演習を実施する
2. P T C A 事業講演会講師	2007年10月	兵庫県民局補助事業「PTCA事業」により西宮浜小学校にて「親の心」と題して講演を行った。
3. 保育所研修会講師	2006年9月	保育所「ちびっ子ランド」において、「子育て支援の現状と課題～子育てするなら西宮～」のテーマで講演を行った。
4. 幼稚園教諭年次経験者研修会講師	2006年7月	幼稚園教諭5年次研修会において、「学びを楽しむ」のテーマで、講話を行った。
5. 西宮市青少年愛護協議会教育講演会講師	2001年7月	西宮市青少年愛護協議会会長が主催した教育講演会において、「完全学校週五日制と地域社会について」と題して講話を行った。
6. 研究発表会指導助言者	1999年10月	西宮市立西宮浜小学校が開催した教育研究発表会において、公開授業参観及び研究発表を聞いた後、全体会において教育研究の進め方について指導助言を行った。
7. 研究発表会社会科・総合的な学習指導助言者	1998年10月	西宮市立西宮浜小学校が開催した教育研究発表会において、公開授業参観及び研究発表を聞いた後、全体会において社会科・総合的な学習の時間の指導のあり方について指導助言を行った。
8. 国際理解教育研修講座講師	1998年10月	兵庫県立教育研修所が開催した日本人学校勤務希望者対象の講座において、外国の社会科教育の現状について講話を行った。
9. 研究発表会社会科教育指導助言者	1996年11月	西宮市立夙川小学校が開催した教育研究発表会において、公開授業参観及び研究発表を聞いた後、全体会にて社会科教育研究の進め方について指導助言を行った。
10. 社会科教育指導助言者	1996年10月	西宮市立段上小学校が開催した教育研究発表会において、公開授業参観及び研究発表を聞いた後、全体会にて社会科教育研究の進め方について指導助言を行った。
11. 校内研究指導助言者	1995年6月	西宮市立小松小学校が開催した教育研究会において、校内研究の進め方について講師を務めた。
12. 研究発表会社会科・総合的な学習指導助言者	1995年6月	神戸大学教育学部附属住吉小学校が開催した教育研究発表会において、社会科と総合的な学習との関連で講師を務めた。
13. 研究発表会社会科教育指導助言者	1994年6月	神戸大学教育学部附属住吉小学校が開催した教育研究発表会において、社会科教育部会で指導助言をした。
14. 研究発表会社会科教育指導助言者	1994年6月	西宮市立北六甲台小学校が開催した教育研究発表会において、授業の参観後、講評と社会科教育のあり方について指導助言をした。
15. 社会科教育研修会講師	1993年6月	尼崎市教育委員会が開催した尼崎市立小学校社会科教育研究会において、社会科教育における実践的課題について講師を務めた。
16. 社会科教育研修会講師	1993年10月	豊中市教育委員会が開催した教育研究会において、社会科教育における国際理解教育のあり方について講師を務めた。
17. 社会科教育研修会講師	1992年10月	伊丹市教育委員会が開催した伊丹市立小学校社会科教育研究会において、社会科教育における教材開発研究のあり方について講師を務めた。
18. 帰国子女保護者研修会講師	1987年4月	西宮市教育委員会が開催した帰国子女保護者会において、社会科学習の方法について講師を務めた。
19. 1) 社会科教育研修講座講師	1984年10月	兵庫県立教育研修所が開催した社会科教育研修講座において、社会科教育の方法について講師を務めた。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. 教育実習指導Ⅰ 教材	2017年4月	講義用教材作成(武庫川女子大学)
2. 教育実習講義Ⅱ 教材	2017年4月	講義用教材作成(武庫川女子大学)
3. 教育実践演習、教職入門、生徒指導・進路指導	2016年4月	講義用教材作成(武庫川女子大学)
4. 世界のあれこれ—子どもの国際感覚を高める問答集	1990年3月	小学校社会科副読本として作成され、社会科授業において使用されてきた

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
5. 世界の人々とのふれあい—国際理解教育教材— (共著) (西宮市教育委員会発行)	1987年3月	小学校社会科副読本として作成され、社会科授業において使用されてきた
6. 西宮のくらし『指導の手引き』(教師用) (共著) 西宮市教育委員会発行	1980年4月1日15年間	小学校3学年社会科指導の手引書として授業構想立案時に使用されている。
7. 西宮のくらし (共著) 西宮市教育委員会	1980年4月1日15年間	小学校3学年社会科副読本として作成され、主教材として使用され、以後現在に至るまで、版を重ねている。
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 山口小学校創立140周年記念事業推進	2012年6月12日	授業公開及び研究発表、マスコットキャラクター制定、記念式典挙行。学校・保護者・地域・行政総掛かりの教育の集大成を行う。
2. 山口小学校教育における地元大学との連携教育 (外部人材活用) に関する研究	2010年4月1日～2013年3月31日	学校サポートボランティア事業推進委員会を立ち上げ、地元の大学と連携した教育のあり方を探る。特に、神戸女学院大学 (外国語活動)、武庫川女子大学 (特別支援教育)、芦屋大学 (特別支援教育) との連携を重視した
3. 山口小学校ブロック幼・保・小・中連携教育研究開発	2010年4月1日～2013年3月31日	山口小学校ブロックの幼保小中連携教育推進委員会を立ち上げ、小一プロブレムの課題解決、発達を重視した12年間を見通した教育のあり方を探る。
4. 兵庫県教育委員会「子どもの健康を守る地域専門家連携総合事業」推進委員会	2009年4月1日～	委員として活動。幼保小中連携教育推進委員会と連携し、地域ぐるみでの健康づくり事業を企画推進する。
5. 西宮市立小学校統廃合研究開発	2009年4月1日～2013年3月31日	西宮市立船坂小学校廃校に伴う西宮市立山口小学校・同船坂小学校統廃合に携わり、新生西宮市立山口小学校を開校する。希望に燃え“未来に生きる”学びの里。「YESと実行 あいたい学校」づくりに精励する。
6. 西宮浜小学校における外部人材活用に関する研究	2008年4月	学校サポートボランティア事業推進委員会を立ち上げ、外部人材を積極的に活用した教育のあり方を探る。
7. 西宮浜地域幼・保・小・中連携教育研究開発	2007年4月1日～2010年3月31日	西宮浜地域の幼保小中連携教育推進委員会を立ち上げ、小一プロブレム、中一プロブレムの課題解決、発達を重視した12年間を見通した教育のあり方を探る。
8. 幼・保・小連携教育研究開発	2005年4月1日～2007年3月31日	幼稚園・保育所・小学校連携推進事業を立ち上げ、公立幼保小管理職合同会議の開催、教職員相互体験研修の実施、公立幼保小連携担当者会を開催するなどして、教師間のつながり、子ども同士のつながり、教育課程のつながりなど基礎づくりをする。 ・幼児教育に係る研究研修会を主催する。 ・保育による「育つ力」の実態調査に取り組む。 ・「人とかかわる力」の実態調査に取り組む。
9. 西宮市立子育て総合センター子育て支援事業	2005年4月1日～2007年3月31日	幼児教育、幼保小連携教育の指導者養成、資質向上に携わる。園長のための管理職研修、教諭・保育士のためのタイムリー講座等企画実施し、指導力向上に努める。
10. 教育における外部人材活用事業研究開発	2002年4月1日～2005年31月	学校園教育の充実を図る「学校サポート西宮」を立ち上げ、特に外部人材を積極的に活用する「ささえ」事業の推進に努め定着させる。
11. 危機対応マニュアル研究開発	2001年7月1日	大阪教育大学附属池田小学校事件に係る、危機対応マニュアル作成し、各学校園所に周知する。
12. 中学生の職場体験「トライやる・ウィーク」研究開発	1998年4月1日～2000年3月31日	兵庫県教育委員会が主催する「トライやる・ウィーク」を西宮市教育委員会担当として、各中学校に周知、受入事業所の確保などに努め定着させる。
13. 文部科学省指示により「幼稚園教育振興計画」策定	1997年4月1日～1998年3月31日	平成13年度までに就園を希望する保護者のニーズに応えるための条件整備に資する幼稚園教育振興計画策定に携わる。
14. 小学校・中学校新設事業	1997年4月1日～1998年3月31日	震災復興住宅地西宮浜に新設する西宮市立西宮浜小学校、同西宮浜中学校新設に教育担当者として携わり、開校に係る業務に従事する。
15. 小学校統廃合研究開発	1996年4月～1997年3月	西宮市立浜甲子園小学校・同東甲子園小学校統廃合に教育担当者として携わり、西宮市立甲子園浜小学校を開校する。
16. 西宮市教育委員会学校教育部学校新設・統合等担当係長兼学校教育課係長	1996年4月	公立学校統廃合、学校新設研究に取り組む。また、「公立幼稚園休廃園規定」研究に取り組む。
17. 指導要録開示請求裁判対応	1995年4月1日～1996年3月31日	指導要録 (指導) 開示請求裁判対応に携わる。
18. 西宮市教育委員会学校教育部学校教育課特命係	1995年4月	特命係係長として、過小規模校 (船坂小学校) の教育問題、複式学級研究等に取り組む。
19. 西宮市教育委員会学校教育部学校教育課指導係	1994年4月	指導係指導主事として管下の学校園の教育指導・助言に携わる。
20. 文部科学省所管中央研修	1991年9月～1991年10月	文部省主催の教員海外派遣団の一員として、ドイツ連邦共和国、イタリア共和国、アメリカ合衆国の教育視察・調査研究を行う。
21. 文部科学省所管中央研修	1986年9月3日～1986年9月7日	文部省主催の昭和61年度帰国子女適応教育指導講習会において所定の課程を修了した。
<b>4 その他</b>		
1. 地理学フィールドワーク	2016年9月	大嶺炭鉱、松下村塾、石見銀山、菅谷たたら方面巡検

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>4 その他</b>		
2. 地理学フィールドワーク	2015年9月	四国西予ジオパーク・宇和盆地・須崎海岸・狩浜の段々畑方面巡検
3. 地理学フィールドワーク	2015年9月	岩宿遺跡・足利学校方面巡検
4. 地理学フィールドワーク	2014年8月	長崎池島炭鉱・軍艦島方面巡検
5. 地理学フィールドワーク	2013年8月	会津・米沢方面巡検（4日間）
6. 地理学フィールドワーク	2012年8月	鹿児島県薩摩金山・甕島方面巡検（5泊6日）
7. 地理学フィールドワーク	2011年4月	岩手県三陸方面（宮古市）被災地支援（5泊6日）
8. 地理学フィールドワーク	2010年8月	島根県隠岐の島方面巡検（4泊5日）
9. 地理学フィールドワーク	2009年8月	横浜・上信越・甲斐方面巡検（4泊5日）
10. 地理学フィールドワーク	2008年8月	愛媛・高知・徳島方面巡検（5泊6日）
11. 地理学フィールドワーク	2007年8月	東北地方巡検（秋田・山形）（5泊6日）
12. 地理学フィールドワーク	2006年8月	北海道地方巡検（札文島、札幌方面）（5泊6日）
13. 地理学フィールドワーク	2005年8月	四国方面巡検（砥部、四国カスト）（4泊5日）
14. 地理学フィールドワーク	2004年8月	鹿児島県巡検（壱岐・対馬方面）（5泊6日）
15. 地理学フィールドワーク	2002年8月	北海道地方巡検（洞爺湖、函館方面）5泊6日
16. 地理学フィールドワーク	2001年8月	鹿児島方面巡検（鹿児島、桜島、指宿）（2泊3日）
17. 地理学フィールドワーク	1999年8月	大分県巡検（大分県姫島、湯布院）（4泊5日）
18. 親と子の郷土史講座（西宮市立郷土資料館）講師	1985年8月～1993年8月	西宮地域諸史

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 博物館学芸員資格		
2. 小学校教諭専修免許状		
3. 高等学校教諭一種免許状 「社会科」 「外国語（英語）」		
4. 中学校教諭一種免許状 「社会科」 「外国語（英語）」		
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		

1. 兵庫県教育委員会「子どもの健康を守る地域専門家連携総合事業」推進委員会	2009年4月～2010年3月	委員として活動 ・健康を守るリーフレット企画・作成・配布 ・夏季休業中地域「ラジオ体操」企画・実施 ・幼保小中学校、保護者・地域拡大保健委員会実施
2. 西宮市立子育て総合センター専門研修	2005年4月～2007年3月	所長として、幼児教育研修、管理職研修、幼保小連携教育、子育て支援について企画・推進
3. 西宮市教育委員会学校教育部学校教育課	2001年4月～2005年3月	学校教育課課長補佐（生徒指導係、障害児教育係を所管）として学校教育指導・行政指導研究に携わる
4. 西宮市教育委員会総務部教職員課（人事研究）	2000年4月～	小学校教員人事研究に携わる
5. 西宮市教育委員会学校教育部学校新設・統合等担当係長兼学校教育課係長	1996年4月～2000年3月	主に以下の新規業務を担当 ・西宮市立東甲子園小学校と同浜甲子園小学校の統合担当→統合校：西宮市立甲子園浜小学校開校業務（平成8年4月～平成9年3月） ・西宮市立西宮浜小学校、同中学校の新設・開校業務担当（平成9年4月～平成10年3月） ・幼稚園教育振興計画策定 ・兵庫県教育委員会補助事業である中学2年生を対象とした、西宮市「トライやる・ウィーク」事業を立上げる。
6. 西宮市教育委員会学校教育部学校教育課	1995年4月～1996年3月	特命係として、指導要録開示請求訴訟に携わる
7. 小学校社会科教育研究	1991年4月～1994年3月	委託研究員（教育方法社会科）として、小学校中学年社会科副読本編集、各年度改訂に携わる
8. 帰国子女教育・外国人子女教育研究	1987年4月～1994年3月	文部科学省（旧文部省）指定 帰国子女教育受け入れ推進地域 帰国子女教育専任教諭として、主に以下の業務を担当 ・西宮市へ帰国する帰国児童・保護者の教育相談 ・日本語指導はじめとする適応指導 ・西宮市帰国子女教育推進委員会運営 ・西宮市帰国子女教育企画委員会運営 ・教材・資料の作成
9. 兵庫県立教育研修所社会科教育教材開発委員会委員	1986年4月～1987年3月	委員として活動。小学校社会科教材開発を行い、研究報告書にて教材開発の内容を発表する。教材は小学校6年生「江戸時代の農業」－西宮の農業（上ヶ原用水の開発）－。
10. 西宮市帰国子女教育研究推進委員会・同企画委員会	1985年4月～1994年3月	幹事長（委員）として活動。帰国子女・外国人子女の受け入れ態勢の確立、個性の伸長、適応指導研究に携わる。その間、文部科学省指定研究発表全国大会、研究紀要等編集・発行等行う。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>4 その他</b>		
1. 文部省（現文部科学省）所管 中央研修	1991年9月～（30日間）	教員海外長期派遣団の一員として、ドイツ連邦共和国、イタリア共和国、アメリカ合衆国の教育視察・調査研究を行う
2. 文部省（現文部科学省）所管 中央研修	1986年9月	帰国子女教育適応指導講習会において所定の課程を修了した

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. 今求められる帰国子女・外国人子女教育	単	1996年9月30日	近代文芸社	豊富な受入れ事例をもとに、著しく多様化している海外から帰国、入国した子どもたちの教育の改善・充実の在り方を示す。22cm 202p.
<b>2 学位論文</b>				
1. 環境意識が高まる環境学習教材の開発等に関する研究	単	2004年3月	博士論文(武庫川女子大学)	学校、保護者、地域との連携を意識した環境学習教材の開発で学校教育における環境教育の在り方について考察
<b>3 学術論文</b>				
1. 西宮市立小学校校歌の中の山と川をめぐる環境教育の可能性-環境学習材の視点から-	単	2017年3月	『学校教育センター年報』第2号 武庫川女子大学 学校教育センター	西宮市の公立小学校の校歌にうたわれている山と川について、特に地理的分布について検討した。A4 pp.45-59
2. 「西宮市立幼稚園の園歌における山と川について」	単	2006年3月	研究紀要』第5巻第2号 西宮市立子育て総合センター	西宮市立幼稚園の「園要覧」平成17年度版に掲載されている「園歌」を分析して、西宮の公立幼稚園の園歌にうたわれている山と川について、特に地理的分布について検討した。A4 48p. pp.1-8
3. 学校内外の連携・交流による環境教育の展開-西宮市立学校における環境学習の実践を例にして-	単	2005年12月25日	『瀬戸内地理』Vol.13, 2004 地域地理学会	小学校の環境教育の現状から、学校、家庭、地域社会、NPO法人と連携・交流した環境意識を高める上で重要なことは3点である。1つは、学校内での連携・交流、2点目は、学校・家庭・地域社会、NPO法人それぞれが主体性を失うことなく、お互いを活かすこと、3点目は、学校は、家庭、地域社会、NPO法人と連携・交流した授業づくりをする企画・運営委員会をつくる必要があることである。B5 pp.22-33
4. 「幼児期の豊かな心を育む絵本の読み聞かせ」	共	2005年11月	『研究紀要』第5巻第1号 西宮市立子育て総合センター	絵本の読み聞かせの現状について、西宮市の公立幼稚園の教師、保護者を対象とした調査の結果を分析するとともに、その調査結果から、心の教育に焦点をあて、「絵本の読み聞かせ」を取り入れた幼稚園における保育が、豊かな心の育成にどのような役割を果たすか考察した。古岡俊之、大江嘉津子氏、安富富美江氏及び塩川二三江氏の共著、A4 46p. 担当部分 pp.1-6, 17-21
5. 小学校中学年社会科副読本の改善への提言	単	2003年12月25日	『新地理』第51巻第3号 日本地理教育学会	新学習指導要領では、小学校第3・4学年の社会科は目標と内容がまとめられ、基本的には子どもたちの住む市町村ないしその周辺部を対象にして展開されることになった。地域学習という性格を以前にも増して明確に再編されることになった。教科書に準じて活用され、利用度の高い副読本の位置づけや編集の基本方針も従来と大きく異なってくる。改善点を提言した。B5 pp.28-38

<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
<b>2. 学会発表</b>				
1. 「幼児期からの環境学習の試み～屋外施設 みやっこキッズパーク発～」	単	2006年8月	日本環境教育学会第17回大会 酪農学園大学	
2. 「子育てするなら西宮～子どもが輝くまち・人に優しいまち～」	単	2006年6月	第17回 日本小児科医学会セミナー 神戸ポートピアホール	
3. 学校内外の人・ものを活かした環境教育の現状と課題	単	2004年8月	日本環境教育学会第15回大会 立教大学	
4. 「社会科教育としての校歌の教材性に関する研究」	単	2004年11月	日本社会科教育学会第54回大会、愛知教育大学	
5. 「地理教育としての校歌の教材性に関する研究」	単	2004年10月	全国社会科教育学会第48回全国大会、鹿児島大学	
6. 「小学校中学年における地域学習の改善に関する研究」	単	2000年10月	全国社会科教育学会第44回全国大会、長崎大学	
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 未来へつながる 学びと育ち ～ 学校から学園へ～	単	2013年3月	西宮市立総合教育センター	統合校へ着任。新たな学校づくりを任された。どう いう学校づくりをしたいのか、お預かりした大事な 大事な子どもたちをどんな方向に案内したいのか、 職員一同一丸となって衆知を絞りいりいると考えて きた。「まど」87号 PP. 6-11
2. 少子・過疎化を生かす『学校づく り』～児童養護施設とつながること から～	単	2012年6月	日本教育公務員弘済会	十全の検討を重ね閉校に踏み切った市当局。政策の 「失敗」などあってはならないことである。1年経過 した今、幸いにして教職員、保護者・地域の方々、 すべての関係者の惜しみない努力で日々「成功」の道 を歩みつつある。
3. 人とのかかわりを豊かにする援助 の方向性を探る	共	2007年1月31 日	西宮市立子育て総合セ ンター 研究紀要平成18年度(20 06年度)Vol.6 No.1	保育活動における人とのかかわりを豊かにする援助 として、人とのかかわり方の技術や知識、コミュニ ケーション力、道徳性、倫理性、社会性、共感性、 期待感などをはぐくむことが大切である。
4. 幼稚園・保育所・小学校 連携推 進の手引	共	2007年1月18 日	西宮市幼稚園・保育所 ・小学校連携推進委員 会 西宮市教育委員会・西 宮市立子育て総合セン ター	「なめらかに育ちや学びをつなぐ」手引書
5. 育ちのつながり 学びのつながり	共	2007年1月18 日	西宮市幼稚園・保育所 ・小学校連携推進委員 会、西宮市立子育て総 合センター	「自分のことが自分でできる子ども」「社会生活の ルールやマナーを守る子ども」「感性豊かで思いや りのある子ども」「表現を楽しみ学びに関心を持つ 子ども」
6. 西宮市立子育て総合センター5年 のあゆみ	共	2007年01月3 1日	西宮市立子育て総合セ ンター・西宮市立育 て総合センター付属あ おぞら幼稚園	開館5周年の「あゆみ」報告
7. 「今こそ教育の原点 に戻るとき」 ー兵庫県 南部大震災に学ぶー	単	1995年7月	季刊 秋田縣教育雑誌 「風土」1995 第36号 (財団法人秋田県教育 振興会)	阪神淡路大震災の際、教育委員会事務局職員として 役割を果たしてきた経験をもとに「学校の機能を見 直す」視点を論じた。
8. 「帰国子女・外国人子女とともに 」	共	1995年1月	岡野君代編著 「地球時 代」を生きるー国際理解 教育ー	帰国児童・外国人児童が身につけてきた、海外生活 経験を保持し助長するための指導の在り方について 、個別指導を中心に実践的研究の成果を示した。22 cm 180p. pp. 26-60
9. 「小学校6年生用同和学習指導資 料集」	共	1993年3月	西宮市立総合教育セン ター	同和教育の推進に資するため社会科指導資料を作成 した。石田清孝氏らと共同執筆 B5 69p. 分担頁p p. 4-37 社会科関係について分担頁 pp4-19
10. 「国際理解を進めるための教材開 発と指導法 ー第6学年「世界の中 の日本」の単元を中心としてー	共	1993年3月	西宮市立総合教育セン ター	研究の視点として、児童が自ら学ぶ意欲と思考力・ 判断力・表現力などの能力を育成するための教材開 発、指導・評価の在り方を重視した。具体的には、 6学年「世界の中の日本」の単元について、教材開 発・単元構成授業実践を行った。特に、中国アメリ カ合衆国を取り上げ、児童にとって身近な学校生活 や年中行事に着目。外国滞在経験者の授業への参加 も試みた。 大西誠二氏らと共同執筆 B5 54p. 分担頁pp. 1-8, 22p. 53p.
11. 『平成3年度実施 小学校標準学 力検査の結果分析 ー国語 社会 算数 理科ー』	共	1993年3月	西宮市立総合教育セン ター	全国の正常率に比べ、劣っている問題について、そ の誤答を分析し、教科の特性や問題の特徴をふまえ つつ考察を加えた。古岡俊之、石田清孝氏、中井 光次、内田卓啄雄氏の共同調査、教育調査 学力調 査(小) F4-02 B5 62. 分担頁pp. 16-31
12. 「帰国・出国される保護者の皆さ んへ」(初版、改訂版)	共	1992年3月	<帰国子女教育資料>西 宮市教育委員会	帰国後のわが国の教育はどうなるだろうかという若 干の不安を持つ親たちに教育的な情報や予備知識を 提供する資料作成。波多野善徳氏らと共同執筆 B5 35p. 分担頁pp. 2-18
13. 「自己学習力を高めるための学習 過程の在り方、資料の開発ー人物 を取り入れた学習過程と資料の開 発ー」～6年『勝海舟』を中心と して～	共	1991年3月	西宮市立総合教育セン ター	子どもの自己学習力を高めるためには、学習過程を 構造化し資料の吟味・開発が重要である6年「武士 の世の終わり」の単元で、勝海舟を中心にすえ、学 習過程の構造化、資料の開発、検証授業を行いなが ら研究を進めた。その結果、人物学習において学習 過程を①つかむ②予想する③調べる④まとめるの4 段階に構造化したことにより学習意欲・態度を育成 し、学び方を習得させることができた。古岡俊之 、小河健一氏、稲森義浩氏、中本淑子氏、白井健人 氏、大場晴美氏、谷順子氏の共同執筆、分担頁 pp. 1 -9 11p. pp. 20-21 pp. 39-44
14. 「個性を生かす教育実践」ー国際 理解教育を基盤にしてー	共	1991年3月	西宮市教育委員会「ま ど」PP. 27-32	ひとりひとりの子どもが自分の考えを持って意欲的 に追求する授業づくりに取り組む一方、個性を生か し国際性を育む教育のあり方を探ってきた実践例を 論じている。小林晶子氏と共同執筆 分担頁 pp.

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
15. 平成3年度 文部省教員海外派遣団報告書	共	1991年12月18日	平成3年度文部省教員海外派遣第6団	27-29, pp.31-32 主視察国 ドイツ連邦共和国・イタリア共和国・アメリカ合衆国(オハイオ州)公式訪問の記録及び報告
16. 「子どもが自ら追求する社会科学習」―「火と人間」の実践を通して―	単	1990年3月	PRIMO『小学校社会科実践講座』	「火を起こす」体験活動を通して、当然だと考えていた物事事象について見直しを始め新たな自分を生み出し始めた。遠く古き時代の人々の喜びや苦しみを実感として捉えた実践の記録。 第10巻 日本の歴史, pp.20-26
17. 「帰国子女指導の手引き」-帰国子女の受け入れから指導事例-	共	1990年3月	兵庫県教育委員会(義務教育課)	外国で問題なくやっていた子どもが、帰国の変化に戸惑い、初めて挫折感に悩まされることも少なくない。その解決のためには、海外経験を積んだ帰国子女への的確な指導と、違いを受け入れる寛容の精神を日本在住の子どもたちに持たせる教育こそ重要である。そこで、実践例を紹介、カリキュラムを編集した。越智和子他と共同執筆、B5 49p. 分担頁 pp.5-9, pp.15-17
18. 「世界のあれこれ」-こどもの国際感覚を高める問答集-〈国際理解教育資料(教師用)〉	共	1990年3月	西宮市教育委員会	西宮市に在住している帰国後3年未満の帰国児童の全家庭に在留した外国での生活の様子をアンケート形式で取材し、西宮市の児童の国際感覚を高め、国際理解を深めるために役立つと思われる事柄を中心に編集。中川憲三他と共同執筆B5 82p. 分担頁 pp.64-77、全体に渡り編集に携わる。
19. 「帰国児童の体験を引き出し生かし国際性の芽を育む」	単	1990年10月	『こどもと教育』神戸大学附属住吉小学校	帰国児童の海外経験を授業に生かし、日本の生活と比較することによって、自らを新しい社会環境に対応させ国際性の芽を育むための道筋を明らかにした。第10号 pp.49-51
20. 「児童が主体的に取り組むための資料の開発 ―5年「水産業」の単元を中心にして―	共	1989年3月	西宮市立総合教育センター	児童が主体的に取り組むための社会科学習を創造するには資料の吟味・開発が不可欠である。5年「水産業」の単元で、資料の収集・開発、児童の実態調査、仮説授業、検証授業を行いながら研究を進めた。 その結果①具体的な物 ②意外性のあるもの ③新しい発見のあるもの ④臨場感あふれるものなどが、児童にとって有効な資料であることが実証できた。 古岡俊之、小河健一氏、河原宏幸氏、和田幸子氏、中尾奈知枝氏、島田剛次氏の共同執筆、分担頁 pp.1-4 pp.8-11 pp.13-14 pp.37-48
21. 「国際理解教育の手引」―世界に目を向ける子供づくり―	共	1988年3月	兵庫県教育委員会(義務教育課)	国際理解教育を推進するための基本的な考え方や具体的な実践例を紹介し、学校での国際理解教育を身構えることなくできるようにした。国際理解教育の推進は、全教育活動を通して実践されなくてはならない。 川端末人他と共同執筆 B5 57p. 分担頁pp22-26
22. 「社会科における国際理解教育の進め方」	単	1988年1月	『国際社会における日本人の育成』第一公報社	社会科における国際理解教育の進め方について、年間指導計画及び学習指導案例を紹介した。古岡俊之、岡野君代氏の共同報告、pp.139-141
23. 「世界の人々とのふれあい」-国際理解教育資料-	共	1987年3月	西宮市教育委員会	西宮市の姉妹都市・友好都市であるスポーケン(アメリカ) ロンドリーナ(ブラジル) 紹興(中国)を子どもたちにとって身近なものとするために、学習資料を執筆、編集し作成した。波多野善徳氏他 B5 52p. 分担頁pp.4-13, pp.16-29, pp.50-51
24. 「小学校社会科における地域素材の開発と教材化 ―土農工商の世の中―	共	1986年3月	兵庫県立教育研修所	今まで余り取り上げられていない6年歴史学習の近世に焦点を研究を進めた。身近にある素材の中から学習のねらいと児童の実態に合致するものを選び出して教材化した。小学校の歴史学習の在り方を示す一つのモデルとして、西宮では「上ヶ原用水」を取り上げ、地域教材開発を試み、具体例を示した。 黒田秀樹氏、岸本雅彦氏、古岡俊之の共同執筆、分担頁 pp.89-101
25. 「帰国子女教育研究の あゆみ」第1集～第9集	共	1985年4月～1993年4月	文部省帰国子女教育受入推進地域指定研究紀要(1指定2年間)(西宮市教育委員会)	帰国幼児・児童・生徒が、安定した気持ちのなかで明るい希望と学習への意欲をもって学校生活を送ることができるようにその適応への具体的な手だてを実践的に究明する。また、海外で身につけた特性を保持・伸長国際理解に役立てる方途を究明 波多野善徳氏他 第8集ではB5 132p. 分担頁 pp.3-21
26. 「帰国子女教育 指導 の手引き」(共同研究-西宮市帰国子女教育研究推進委員)	共	1985年4月	西宮市教育委員会	帰国児童・生徒の指導方法について、具体例を示し、スムーズな受入れのための手引き書を作成した。出国にも配慮した。波多野善徳氏他 B5 42p. 分担頁 pp.10-16
27. 「西宮市における帰国子女教育の現状」	共	1985年1月	西宮市教育委員会	帰国子女は増加の一途をたどっている。学習、言語、生活習慣等の違いから不適応を起こしている事例を見受ける。西宮市帰国子女教育研究推進委員会発足の年に市内における帰国子女の実態や意識調査の結果をまとめた。波多野善徳氏他 B5 48p. 分担頁

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
				pp. 27-38
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2013年4月1日～2014年3月31日	西宮市立小学校長会会長
2. 2013年3月1日～2013年3月31日	兵庫教育大学連携協力校連絡協議会委員
3. 2011年4月1日～2013年3月31日	西宮市立小学校校長会副会長
4. 2011年3月～現在に至る	日本臨床教育学会
5. 2006年4月～現在に至る	武庫川臨床教育学会
6. 2002年4月～現在に至る	日本地理教育学会、東北地理学会、地域地理科学会
7. 2001年4月～現在に至る	日本環境教育学会、日本社会科教育学会
8. 1998年4月～現在に至る	大阪教育大学地理学会
9. 1995年8月～現在に至る	全国社会科教育学会
10. 1989年4月～1990年3月	兵庫県教育委員会「帰国子女指導カリキュラム」編集委員
11. 1987年4月～1988年3月	兵庫県教育委員会「国際理解教育の手引き」編集協力員
12. 1984年4月～1993年3月	文部省帰国子女教育受入推進地域指定西宮市帰国子女教育推進委員会推進委員
13. 1984年4月～1986年3月	兵庫県立教育研修所 教材開発委員会地域教材部門（小学校社会科）委員
14. 1980年4月～1987年3月	西宮市立教育研究所（総合教育センター前身）委託研究委員「教育方法 社会科」